

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Development of a risk score for colorectal cancer in men. 男性の結腸直腸癌のリスクスコアの開発	
<b>執筆者</b>	
Driver JA, Gaziano JM, Gelber RP, Lee IM, Buring JE, Kurth T.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Am J Med. 2007 Mar;120(3):257-63.	
<b>キーワード</b>	
大腸癌、直腸癌、リスクスコア、リスク予見、行動的リスクファクター	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 結腸直腸癌は頻度が高く予防可能な疾患であるのにもかかわらず依然として健診受診率が受け入れ難いほど低い。</p> <p><b>方法：</b> Physician's Health Study (癌既往のないアメリカ人男性医師 21581 人からなる前向きコホート)の参加者の中での結腸直腸癌発症のリスク評価システムを開発した。結腸直腸癌の予測因子はベースラインの質問表から自己報告され同定された。ロジスティック回帰分析により追跡期間中の結腸直腸癌発症の独立した危険因子が決定された。リスクスコアは最終的な予測因子のオッズ比の合計から作成しそれを用いて相対危険度の上昇に応じてコホートを分類した。</p> <p><b>結果：</b> 20 年間追跡し結腸癌 381 例、直腸癌 104 例が発症した。年齢、飲酒、喫煙、BMI が有意な独立した危険因子だった。点数化されたスコアによって 10 のリスク集団を決定した。もっとも危険度の高いグループ (リスクスコア 9-10 点) の結腸大腸癌のオッズ比はもっともリスクの低いグループに比べて 15.29 (信頼区間; 6.19-37.81) だった。さらに集団全体をリスクスコアによって 3 分割すると最も危険度の低いグループ (0-3 点) に比べ中等度のグループ (4-6 点) のオッズ比は 3.07 (信頼区間; 2.46-3.83)、危険度の最も高いグループ (7-10 点) では 5.75 (信頼区間; 4.44-7.44) だった。</p> <p><b>結論：</b> 我々は男性の年齢や飲酒、喫煙、BMI などの修正可能な要素に基づいた結腸直腸癌発症の危険度の上昇を予測する単純な点数化システムを開発した。他の集団でのリスクスコアの有効性の評価が待たれる。</p>	